

平成 29 年度 地域と連携した防災教育推進事業 実施計画書

学 校 名 丹波市立前山小学校

校 長 名 蘆 田 勤

1 研究テーマについて

貴校の課題	本校は、3年前の豪雨災害により甚大な被害を受けた地域にある。関係機関の助力のもと、その時々に応じて対処すべき課題に正対してきた結果、2年目の11月現在、施設設備や学校の日常生活、行事等のすべてにおいて、通常の学校生活を取り戻すことができた。 それ以後、盛んに進められている工事がもたらす影響に対し、環境面や交通安全等に対する注意を払い、落ち着いた学校生活が築けるよう継続的な努力を重ねているところである。 本校の課題は、被災の当事者として、児童・教職員・保護者に至るまで、災害に対する正しい知識や技能を身に付け、災害に対して主体的に判断・行動できる「本物の力」を付けることである。また、現状を客観視し、その被害についてはもちろん、復旧・復興を目指した人々の前向きでたくましい働きについても理解を深め、児童自らの中に、当地域における主体者意識を育んでいくことである。 2年前、当時の本校事情を考慮して、「ソフトな防災教育」からスタートさせた本取組ではあったが、昨年度には、関係機関からの助言を受けつつ、全教職員が一体となった取組へと進化させることができた。フィールドワークを繰り返すうち、現場にこだわり、地域の方々と手を携えた防災教育、地域の方々の願いや「ふるさと感」を授業に携わった者全員が感じることができるよう学習へと、転換が図れたのである。 本年度は、「地域との連携」の部分を一層色濃くし、本校のふるさと教育の重要な領域としても位置付けていきたい。また、防災・減災という方向からも、地域ぐるみでこの方向が目指せるよう、具体的な防災教育の取組を通して地域連携を促し、学校が核の一つとなって、「地域と一体となった学校防災体制の構築」に資するよう取り組んでいきたい。
研究テーマ	○防災教材活用研修 ・被災経験を今後に生かせるように作った防災教育教材の活用の仕方を先行研究し、事例として残す。 ・効果的な使用方法について、市内の学校に普及させる一翼を担うべく校内研修を進める。 ○地域連携を意識した「防災訓練」の実施 ・この実施に伴う研修や打ち合わせ、説明、地域との連携 ○危機管理マニュアル改善サイクルの確立 ・防災訓練等の実施と、反省や更新サイクルの一体化

2 年間研究計画

1 学 期
・防災教育年間計画の更新及び作成 ・「防災授業」と、その後の「引き渡し訓練」（オープンスクール活用による啓発） ・PTAと連携した「防災下校」の実施 ・防災授業研修 … 地域教材を活用した防災授業と職員研修（講師招聘）2回 ・防災教育研修会 … 地域連携を意識した「防災訓練」と、危機管理マニュアルの見直し（夏季休業中）
2 学 期
・「防災授業」 … 当地につながりのあるボランティア団体を講師とした、災害に対する正しい知識や技能の習得。被災時からの絆の実感。 ・地域連携を意識した「防災訓練」の実施（この機会では困難な時 → 3学期）
3 学 期
・地域連携を意識した「防災講演会」の開催 → 保護者や地域に対する啓発 ・危機管理マニュアル最終点検 … 年間を通じて実践し、反省を加えてきた避難訓練等についての最終確認

3 期待される効果

対 象	期 待 さ れ る 具 体 的 な 姿
児 童 生 徒	・フィールドワークで、地域の「人・こと・もの」と出会い、防災の面でも、ふるさと教育の面でも、新たな発見に基づいた実感のもてる学習ができる。当地の現状を再認識し、「ふるさと」の中での自分の立ち位置を感じとれる。 ・自分達の体験を活かした教材の使用により、主体的な学習につなげられる。また、自らの体験した経験を価値づけ（プラス評価）ることができる。 ・外部講師を活用した授業は、楽しく正しく防災知識が得られるものであるとともに、被災時からの「人とのつながり」を感じとることができる機会にもなる。
教 職 員	・「授業」を核として、防災教育に関する集中した取組ができ、教職員の一体感を作りやすい。また、日々の教育活動を、防災教育の視点で捉えなおすことができ、新学習指導要領に言う「社会に開かれた授業」の構築に近づけられる。 ・学校防災体制の充実 顔が見え、行事と一緒に取り組んだ関係は、非常時においても強みとなる。教職員や児童や保護者が一体となっている関係性そのものが、非常時において安心感をもたらす。
そ の 他	・学校が、防災に関する地域教育拠点として貢献できる。防災教育関連の取組があるごとに保護者や地域に周知し、防災・減災につながる知識や態度を、子どもを介して、保護者や地域に対して浸透させることができる。 ・学校防災体制の充実